



# 米国株 MARKET PICK UP



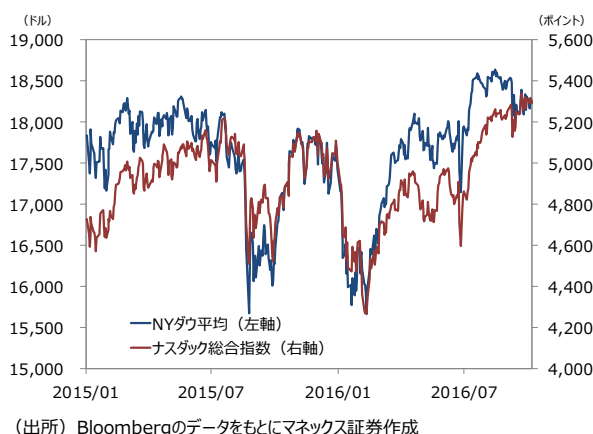
## 先週の米国株式市場—早期利上げをめぐる思惑などから小幅反落—

	前週終値	10月3日	10月4日	10月5日	10月6日	10月7日	週間騰落幅	週間騰落率
ダウ平均	18,308.15	18,253.85	18,168.45	18,281.03	18,268.50	18,240.49	-67.66	-0.37%
騰落幅		-54.30	-85.40	+112.58	-12.53	-28.01		
S&P500	2,168.27	2,161.20	2,150.49	2,159.73	2,160.77	2,153.74	-14.53	-0.67%
騰落幅		-7.07	-10.71	+9.24	+1.04	-7.03		
ナスダック総合指数	5,312.00	5,300.87	5,289.66	5,316.02	5,306.85	5,292.41	-19.60	-0.37%
騰落幅		-11.13	-11.22	+26.36	-9.17	-14.45		

### ＜先週の概況＞

先週の米国市場でダウ平均は67ドル安と小幅に反落しました。週初から相次いでFRB高官が早期利上げを主張したことなどから下げて始まったダウ平均は、ISM非製造業指数の改善が好感され反発する場面もありましたが、その後は値を戻せませんでした。ただ、週明け10日のダウ平均は88ドル高と反発しています。

NYダウ平均とナスダック総合指数の推移

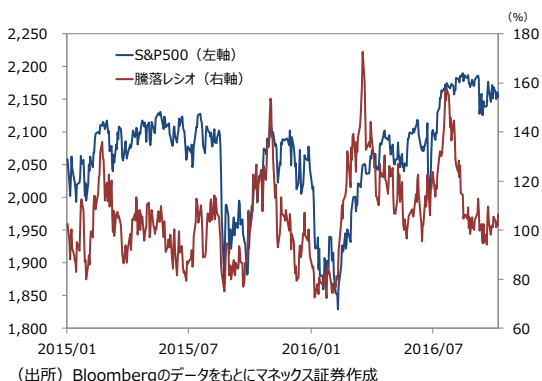


## 米国株式市場バリュエーション

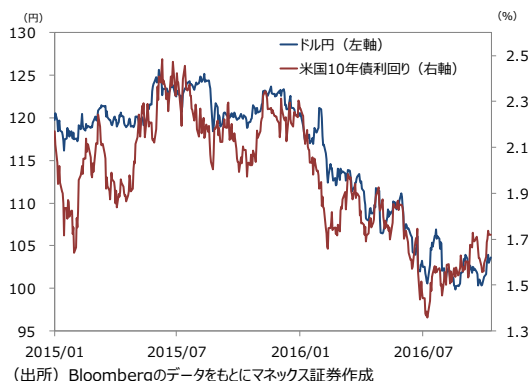
指数	予想PER (倍)	PBR (倍)	予想配当利回り
ダウ平均	17.0	3.1	2.6%
S&P500	18.3	2.9	2.1%
ナスダック総合指数	22.4	3.6	1.2%

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成 (2016年10月10日時点)

S&P500と騰落レシオの推移

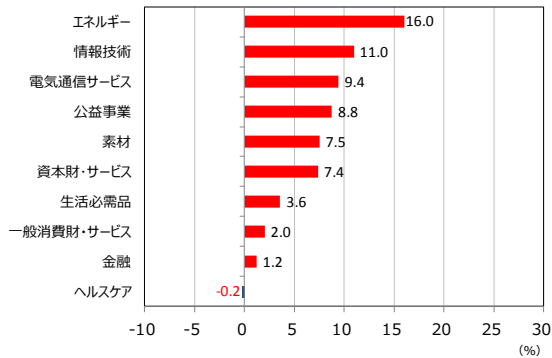


ドル円と米国長期金利の推移



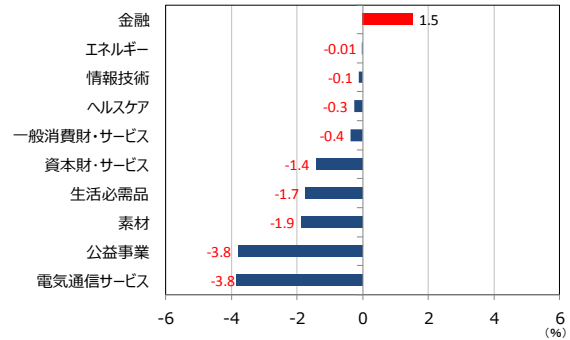
## 業種別リターン

S&P500 業種別年初来リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

S&P500 業種別週間リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

## ダウ平均採用銘柄 週間騰落率ランキング

値上がり率ランキング (10/3-10/7)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
GS	ゴールドマン・サックス・グループ	5.3
JPM	JPMorgan Chase & Co.	2.3
DD	DuPont	2.1
BA	Boeing	1.6
JNJ	Johnson & Johnson	0.9
INTC	Intel	0.9
AAPL	Apple	0.9
MRK	Merk	0.6
MSFT	Microsoft	0.3
PG	Pfizer	0.3

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

値下がり率ランキング (10/3-10/7)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
WMT	ウォルマート・ストアーズ	-4.7
VZ	Verizon Communications	-4.0
AXP	American Express	-3.6
MMM	3M	-2.8
UNH	UnitedHealth Group	-2.4
IBM	IBM	-2.0
GE	General Electric	-1.8
MCD	McDonald's	-1.7
NKE	Nike	-1.6
KO	Coca-Cola	-1.4

(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

### <上昇>

利上げによって利ざやが拡大すると期待され、ゴールドマン・サックス (GS) と JP モルガン (JPM) の金融 2 社が上昇率 1 位と 2 位になりました。また、デュポン (DD) やボーイング (BA) もしっかりでした。

### <下落>

市場予想を下回る通期の業績見通しを発表したウォルマート・ストアーズ (WMT) が 5% 近く下落し下落率トップとなりました。アメリカン・エクスプレス (AXP) も投資判断引き下げが嫌気されて 4% 近く下げています。

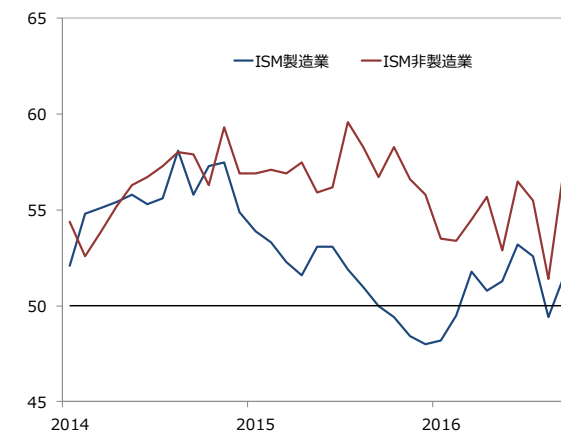
先週発表された主な経済指標

ISM 製造業景況感指数	9月	51.5	市場予想	50.4	前月	49.4
ISM 非製造業景況感指数	9月	57.1	市場予想	53.0	前月	51.4

8月分で大きく悪化したISM 製造業景況指数、ISM 非製造業景況指数が、揃って9月分で大きく回復しました。まず、製造業指数のヘッドラインは49.4→51.5と市場予想を上回る改善を見せ50の節目を超えました。そして非製造業指数のヘッドラインは51.4→57.1と5.7ポイントの改善で、V字回復と言っても良い大幅改善となりました。

両指数の大幅改善を受け、年内の利上げ可能性がかなり高くなったと言えます。

ISM景況感指数（製造業・非製造業）



(出所)トムソン・ロイターデータよりマネックス証券作成

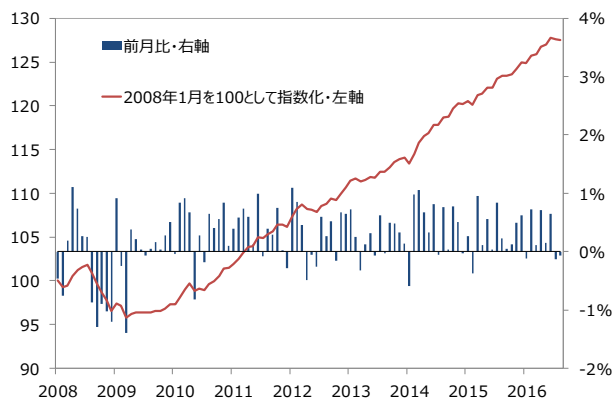
今後発表される主な経済指標

9月	小売売上高（自動車・ガソリン除く、前月比）	市場予想	+0.3%	前月	-0.1%
----	-----------------------	------	-------	----	-------

14日に9月の小売売上高が発表されます。変動の大きい自動車とガソリンを除いた売上高は8月まで2ヶ月連続で前月比減少しており、個人消費低迷の兆しではないかとやや懸念されています。

市場予想では9月は3ヶ月ぶりに前月比プラスになると見込まれています。

小売売上高（自動車・ガソリン除く）



(出所)トムソン・ロイターデータよりマネックス証券作成

## マーケットビューー相当に悪い指標が出なければ 12 月利上げへー

先週のマーケットビューーでは ISM 製造業景況指数、ISM 非製造業景況指数に注目と記しました。9 月の連邦公開市場委員会 (FOMC) で利上げが見送られた大きな理由の 1 つとして、8 月分の両指数が揃って大きく悪化したことがあるとみられます。9 月分で両指数はそれぞれ大きく回復し、米経済の先行き不安は後退しました。

7 日に発表された雇用統計は非農業部門雇用者数や失業率といった注目度の高い指標こそ市場予想に及ばなかったため、やや冴えない印象を与えますが、中身を細かくみていくと決して悪い内容ではありません。年内の FOMC は 11 月と 12 月の 2 回ですが、11 月は約 1 週間後に大統領選を控えていることから利上げに踏み切って市場に混乱を与えるリスクを取ることは避けやすいとみられます。12 月の FOMC までに相当に悪い経済指標が出なければ、12 月に利上げが実施される可能性はかなり高くなったと考えています。

フィナンシャル・インテリジェンス部 益嶋 裕

当社は、本書の内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想及び判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。当社は本書の内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。本書の内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。内容に関するご質問・ご照会等にはお応え致しかねますので、あらかじめご容赦ください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号  
 加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会